



議会だより 議員としてあらゆる機会を活用し、経験学んだことを、議会で積極的に発言させていただいています。

◆ 子どもを虐待から守る条例づくりプロジェクトチームの一員として取り組みました。

私たちはわがまちの子どもたちを虐待から守り一人一人が尊重され幸せに生きてほしいと願いを込めて「北九州市子どもを虐待から守る条例」をつくり、昨年の12月定例会本会議において全会一致で可決され、今年の4月1日から施行されます。

私は条例をつくる際、少しでもわかりやすくと思いを込めた前文を入れることを提案し、プロジェクトチームのメンバーで議論を重ねました。ぜひ条例全部を皆様に見ていただきたいのですが、スペースの関係で全部を載せることが出来ませんのでここでは前文だけご紹介致します。

全文は北九州市議会ホームページからご覧下さい。

【前文】子どもには、生まれながらにして、その一人一人がかけがえのない存在として認められ、幸せに生きる権利があります。子どもには、愛され育つ権利、守られる権利、安心して自分の感情や思いを表現する権利があります。子どもの権利を守るには、大人の支援が必要です。子どもへの虐待により、幼い命が奪われる痛ましい事件が後を絶ちません。虐待に苦しみ、その痛みじっと耐え、誰かの助けを求めている子どもがいます。子育てに悩み、助けを求めている保護者もいます。

北九州市の全ての子どもが虐待から守られ、愛される幸せを実感して生きていくことができるよう、市民が一丸となって、子育て支援を充実し、子どもの命と育ちを守るため、この条例を制定します。

◆ 市立八幡病院が昨年末新築移転、機能も充実しました。

新しい病院は以前あった場所のすぐ近くで、救急救命医療、小児救急医療、災害支援医療を政策医療に掲げ、消防局の常設型救急ワークステーションが設置されたり、手術室内に血管造影装置とCTが設置され、緊急症例にも対応できるハイブリッド手術室など完備されています。

また私が以前から要望していた、自分の経験から特に子どもの入院の際に付き添いの保護者がちょっと横になることが出来る多目的な椅子や、大規模災害時も含めベッドが足りない時にはベッドになる待合室の椅子などを取り入れ、また小さな子どもが入院した際の家族連れに配慮したスペースの設置などさまざまな工夫がなされており、うれしく思いました。



八幡病院のハイブリッド手術室

緊急時ベッドにもなる待合室の椅子

病室の椅子

八幡病院の屋上ヘリポート

簡易なベッドにもなる病室の椅子

決算議会

市長質疑

鳥獣被害につながる小動物への餌やり禁止と動物愛護に関する予算確保のためのふるさと納税の活用について

近年鳥獣被害が多く取り上げられ、特にイノシシやサルなどが山からふもとに下りてきて、人に危険を及ぼす可能性が高くなっています。

本市でも様々な鳥獣被害対策を行い少しずつ成果はあげているものの、うり坊がかわいいと安易に餌をやる方がいたり、多いのは野良犬や野良猫に餌を与えるつもりが、結果としてイノシシに餌をあげていることになり、イノシシが餌を求めて山からふもとに降りてきている状況があります。

小動物への餌やりのつもりが、実はとても危険な結果を生み、本来かわいいはずの小動物が、無責任な餌やりによる過剰な繁殖によって、地域の方々の迷惑になり、嫌われたりするだけでなく、イノシシなどの鳥獣被害につながります。もっと動物愛護のしっかりとした啓発が必要で、現在取り組みを進めている犬猫の致死処分ゼロを実現するためにも、動物愛護団体などを支援し取り組みにご協力いただいたり、保護された犬や猫、地域猫に対する去勢、避妊手術も有効であることからふるさと納税を活用した取り組みをしてはどうか尋ねました。

北橋市長は、イノシシ対策については、これまで個体数を削減するため、平成29年度は773頭捕獲し一定の成果を上げている。ただ現在、イノシシの相談の約9割が市街地の住民の方からで、市街地に出没するイノシシは、一歩間違えば重大な事故につながる可能性もある。市街地では、銃やわなを使った捕獲が困難であるため、これまで餌やり禁止やごみ出しルールの徹底のほか、隠れ場所の排除や防護柵の設置などについて、看板やリーフレットを使って周知し、イノシシを近づけ

ない環境づくりに取り組んできた。かわいい、かわいそうなどの心情で野生鳥獣に餌をやるのが、結果としてその命を奪う駆除につながることを理解してもらうため、アニメーションの啓発動画を作成し、市のホームページやYouTubeで配信をしている。

最近公園周辺での犬や猫への餌やりについても、イノシシを市街地へ近づける要因の1つとなっている。

このため、看板の設置やチラシの配布、餌をやる市民への説明など、関係部局が連携して取り組んでいる。

今後とも、イノシシを初め、野生鳥獣への餌やり禁止の啓発については、説明や指導を行うなど、個々の事例に丁寧に対応し、看板、チラシ、動画などによる広報を進め、市民が安心して生活できる環境づくりに取り組む。

動物愛護の予算確保のため、ふるさと納税を活用できないかという質問には他都市でもふるさと納税が譲渡事業、普及啓発、不妊手術などさまざまな事業に活用されている。他の都市の例も参考にふるさと納税の活用について検討する。とのことでした。

他にも以下のような質問要望をしています。(一部です)

- ・ 中小企業の人材不足対策について
- ・ 認知症対策について
- ・ 健康づくり支援について
- ・ 市営住宅の保証人について 他



早いものでわが子も中学1年生になり、身長はすでに抜かされました。小学生までは様々な地域のイベントと一緒に参加していましたが、今は部活で土日忙しくなかなか参加できず残念な状況です。

私自身小学生の頃自治会の活動に積極的に参加し、地域に興味を持ちその後まちづくりに関心を持ち、現在の仕事につかせていただきました。

子どもの頃の経験が大人になって生きることも多いと思います。今後は大学入試も大きく変わり単

に知識を覚えるだけでなく様々な経験を通じて養われる問題が問われるとお聞きします。成長する中でぜひ一時期でも地域の行事に参加する経験も大切ではないかと思います。地域ごとにいろいろな行事が行われていますので、ぜひご参加下さい。

また日本一子育てしやすいまちにするために皆様のお声をぜひ聞かせてください。また子育てだけでなく市政に関するお悩み事があればぜひご相談下さい。何か解決の糸口を一緒に見つけられればと思います。どうぞ事務所までご連絡下さい。